

～「機械工業の未来を見る」釜山国際機械大展 2025 の会場から～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)
原田 亞太留

皆様、こんにちは。

2025年4月から新たに釜山広域市に派遣されました、原田と申します。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

5月20日から23日にかけて、釜山広域市の主催で工業用機械の展示及び商談を行う「釜山国際機械大展 (BUTECH2025)」が開催されました。31カ国から約1,800以上のブースが出演したこの展示会では、大小様々な工業用機械が展示されていました。釜山・蔚山・慶尚南道の地域は、韓国国内でも有数の工業地域であり、工業用機械の需要が期待できるため、多くの関係者が各企業の出展ブースを訪れ、商談等を行う様子が見られました。

BUTECH2025で出展数が最も多かったのはやはり韓国国内の企業で、場所によつては通行が困難となるほどの盛況でした。機械の種類もネジ等の小さな部品製造から大型の加工機械など様々で、ジャンルを問わず多種多様な機械が展示されていました。

また、このBUTECH2025で特に目にとまったのは中国系企業で、出展数もさることながら、ブース運営への力の入れ具合が印象的でした。人員数が大変多く、1ブースに20名以上いる場合もありました。1ブースに数名程度の企業が多かった中で、これは大変目立つ光景です。会場はオープンスペースであるため、各ブースでの来客数や、積極的に商談している姿も目を引きました。中国系企業のブースでは、韓国企業とはもちろんのこと、海外企業との商談がさかんに行われていました。ブースは、機械の展示のみならず、商談用のスペースが大きく確保されており、自社への自信が強く感じられました。

また、日系企業も出展しており、各ブースの来客状況は上々で、所狭しと来場者が訪れ、熱心に質問を投げかけていました。販売方法もインターネットでの販売も含めて様々で、日系企業ならではのおもてなしや細やかさを感じました。

今回のBUTECH2025が賑わう様子は、日系企業をはじめ、釜山・蔚山・慶尚南道、外国の企業が、今後さらに発展していく未来を予感させるものでした。なお、次回は2年後の2027年に開催される予定となっています。



(写真左右：会場内の様子。多くの来場者で賑わっていた。)